

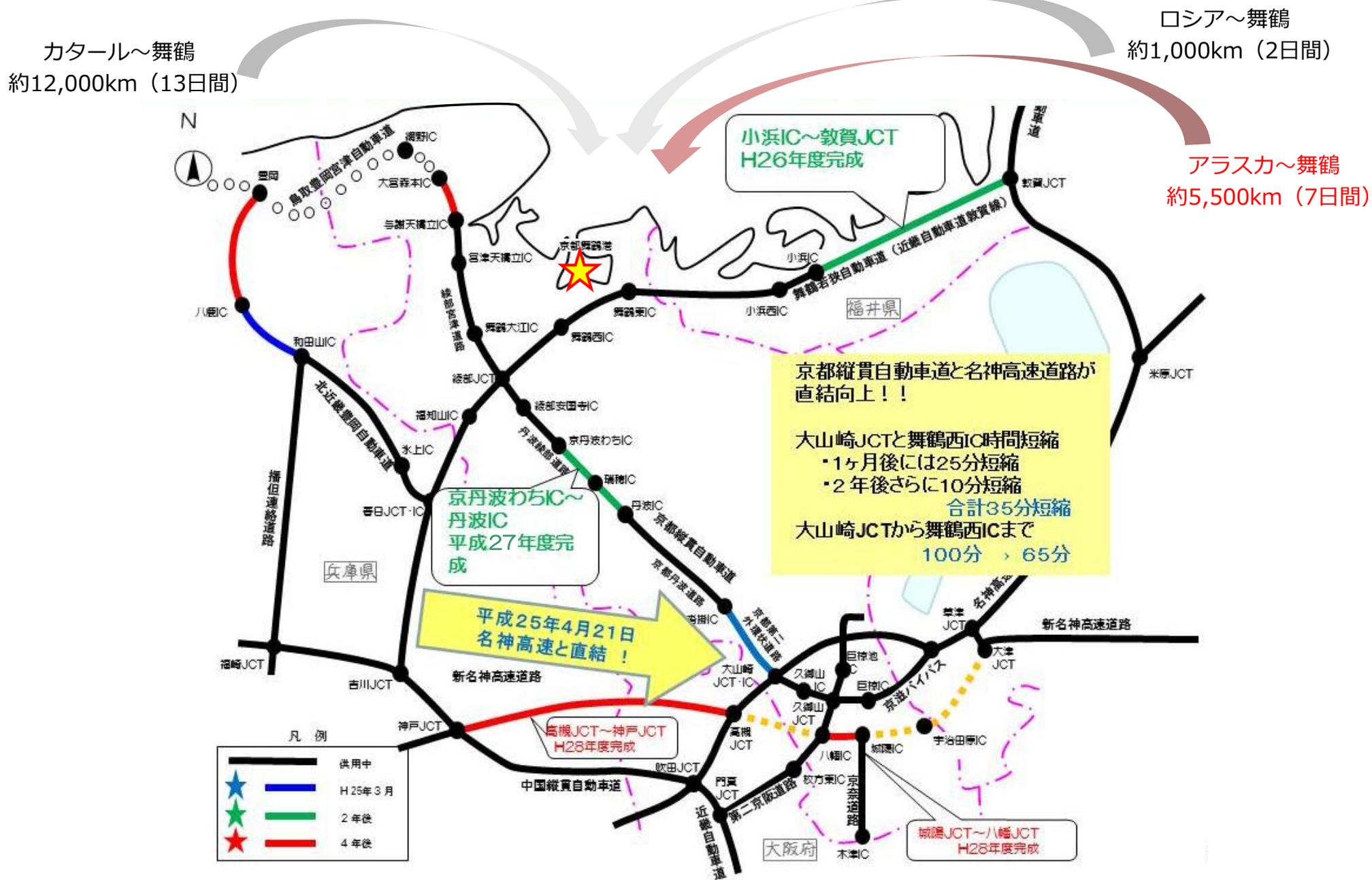
平成27年10月27日(火)

第2回北近畿エネルギーセキュリティ・インフラ整備研究会

天然ガス資源の調達・確保 ～京都舞鶴港の現状～

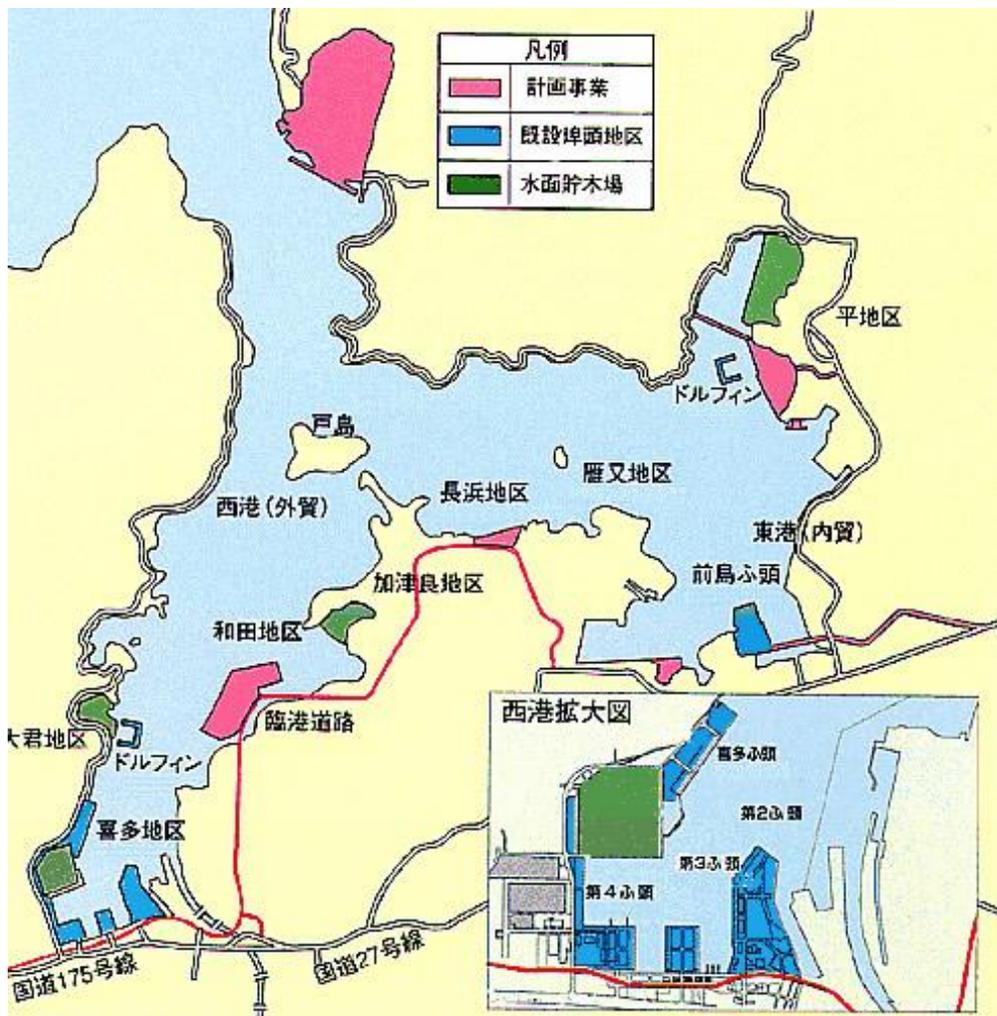
事務局(京都府・兵庫県)

京都舞鶴港の現状①



京都舞鶴港の現状②

港湾計画



港湾施設の概要

ふ頭	延長	バース数	水深
舞鶴国際ふ頭	280m	1	-14m
第2ふ頭	645m	4	-10m~-7.5m
第4ふ頭	185m	1	-10m
	300m	3	-5.5m
喜多ふ頭	130m	1	-7.5m
	240m	1	-12m
前島ふ頭	130m	1	-7.5m
	230m	1	-8m
	180m	2	-5.5m

出所:一般社団法人 京都舞鶴港振興会HP

港の利用状況(西港地区)



喜多地区

←喜多岸壁(-12m)

←喜多岸壁(耐震 -7.5m)

喜多貯木場

第二ふ頭二号岸壁(-10m)→

←第二ふ頭一号岸壁(-7.5m)

漁港区域

第1ふ頭地区

第二ふ頭三・四号岸壁(-9m)→

舞鶴港木材団地

第4ふ頭地区

第2ふ頭地区

第四ふ頭岸壁(-5.5m) x 3→

←第三ふ頭一号岸壁(-10m)

喜多工業団地

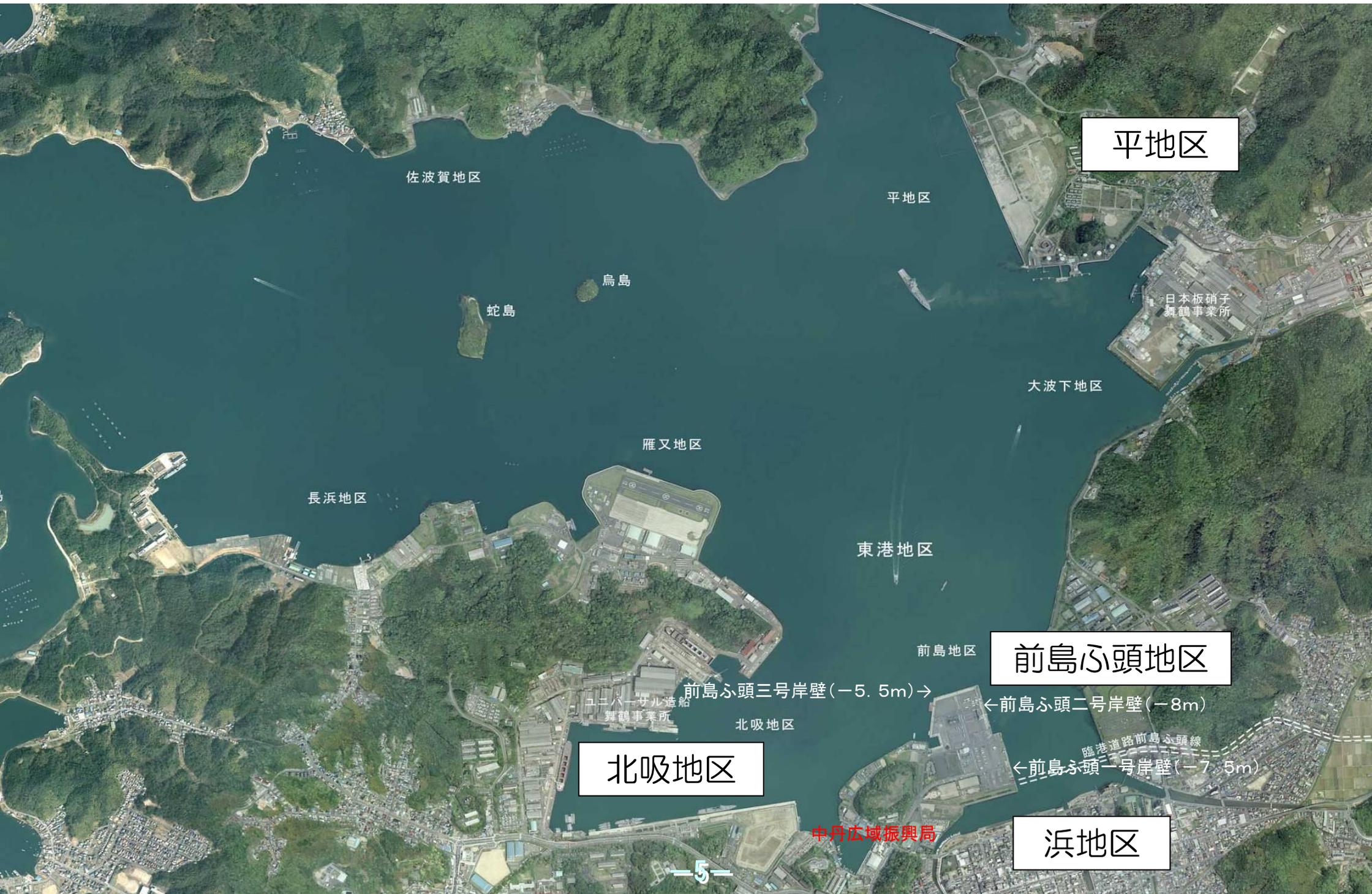
第四ふ頭岸壁(-10m)→

←第三ふ頭二号岸壁(-10m)

舞鶴21ビル

第3ふ頭地区

港の利用状況(東港地区)



平地区

平地区

大波下地区

雁又地区

長浜地区

東港地区

前島地区

前島心頭地区

北吸地区

浜地区

港の利用状況(舞鶴国際ふ頭)



事業経過等

- ・ H 1. 事業着手
- ・ H22. 3. 14 完成式典
- ・ H22. 4. 1 供用開始(中国韓国各1便/週)
- ・ H25. 5 中国1便/週 韓国2便/週 ロシア不定期
- ・ H27. 4 上屋供用開始

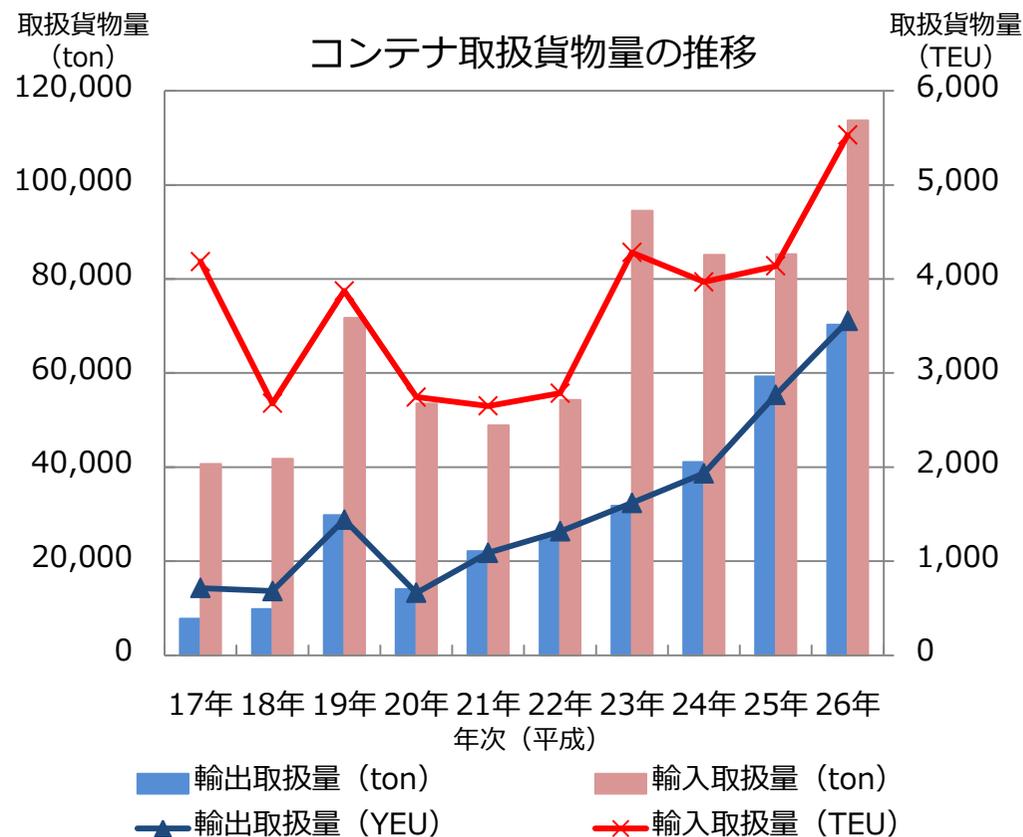
京都舞鶴港の現状③

輸送需要の増大や船舶の大型化に対応するため、西港の和田地区に、5万トン級船舶が接岸可能な水深14mの岸壁および背後の荷捌地を有する多目的国際ターミナル「舞鶴国際埠頭-みずなぎ埠頭」が整備され、2010年4月から供用開始。

京都舞鶴港は、関西経済圏における日本海側の拠点港としての一層の発展を目指し、またコンテナ貨物、RORO船、国際フェリー等多様化するニーズにこたえ、機能を十分発揮するべく、港湾計画に基づき、着実に整備が進められています。舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道が全面開通し、京阪神の後背地と京都舞鶴港との時間的距離が近くなりアクセスも一層便利になっています。



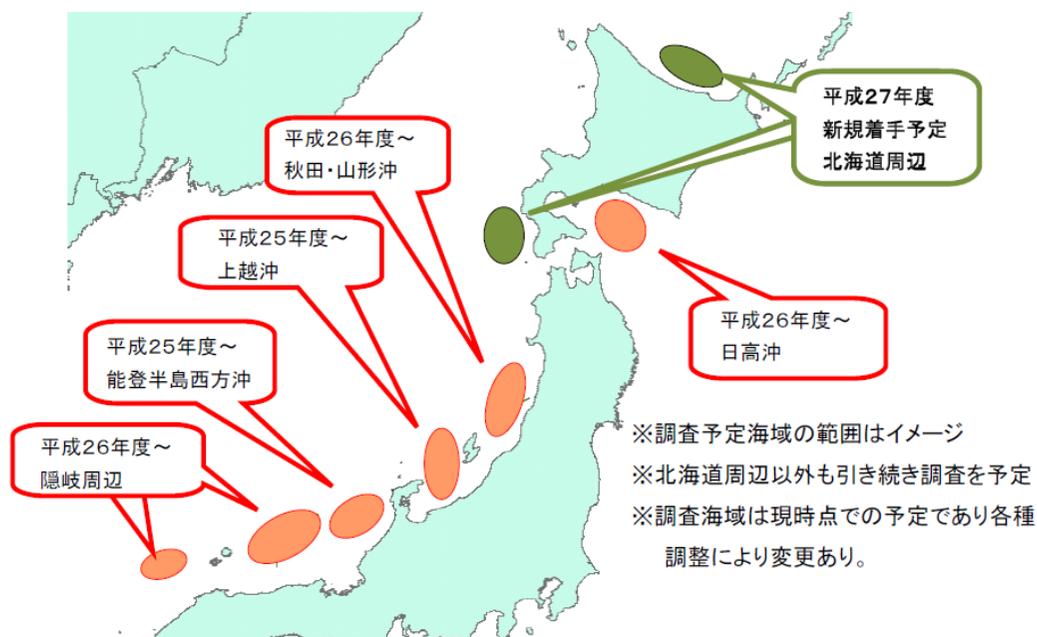
出所：一般社団法人 京都舞鶴港振興会HP



出所：京都舞鶴港港湾統計 京都府HP

日本海側におけるメタンハイドレート開発

- 平成24年度 海洋エネルギー資源開発促進日本海連合結成
会長：山田京都府知事、会員：日本海沿岸12府県
(日本海における**メタンハイドレート**、石油、天然ガス等の海洋エネルギー資源の開発を促進するため、海洋エネルギー資源開発に関する情報収集や調査研究、国への提案・要望活動等を実施。)
- 平成25年度 国が表層型MHの調査を開始。25～26年の調査で971箇所のカスチムニー構造（表層型MHの存在の可能性がある構造）を確認
- 平成28年度 砂層型MHの商業的産出技術整備に向けて、1ヶ月程度の海洋産出試験等を実施。また、表層型MHの回収技術の調査等の実施。



出所：資源エネルギー庁26年12月25日発表ニュースリリース

※メタンハイドレート (MH)

固体物質：メタンガスと水が低温、高圧の状態では結晶化した氷状の物質。メタンハイドレート1 m³には約160～170倍の体積のメタンガスが含まれる。

水深1,000mの大水深海底下や凍土層下に存在。日本近海では東部南海トラフ海域や日本海側に存在。

海底から数百m下に水平に広がって分布する「砂層型」と海底付近に集積して分布する「表層型」の2タイプがある。日本海側では表層型の賦存が確認されている。

国によるメタンハイドレート開発計画

メタンハイドレートの商業化に向けた工程表

- 新たな「海洋基本計画」(平成25年4月閣議決定)では、
 (1) 砂層型メタンハイドレートについては、①「平成30年度を目途に、商業化の実現に向けた技術の整備を行う」**目標を確実に実施する**。また、②**商業化プロジェクトに向けた目標を初めて設定**。
 (2) 表層型メタンハイドレートについては、**表層型の資源量調査目標を初めて設定**。資源量を把握するため、平成25年度以降3年間程度で広域的な分布調査等を実施する。

